

第25回火山噴火予知連絡会議事録

日 時：昭和57年5月18日(火) 14時00分－16時45分

場 所：大手町合同庁舎第3号館共用第6会議室(BF2)

出席者：委員：下鶴、横山、高木、力武、行武、青木、久保寺、加茂、太田、小坂、小松原、飯田^{*}
(文部省)、小野、水野、佐藤、高橋、末広、山川、渡辺^{*}(気象研)、河村
注) *印：委員の代理出席、()内は所属。

オブザーバー：小宮(国土庁)、村田(文部省)、土肥(国土地理院)、
熊谷(防災センター)

庶務：竹山、吉留、永福、宇平

1. 新委員の紹介(山川委員)

科技厅生活科学技術課長倉持哲士氏から大橋哲郎氏

国土地理院地殻調査部調査課長春山仁氏から地殻活動調査官水野浩雄氏

気象庁火山室長清水重郎から竹山一郎(事務局)

2. 第24回連絡会議事録(案)は異議なく承認された。

3. 最近の火山活動

3.1 浅間山

竹山(気象庁)：活動経過、降灰分布等について

下鶴委員：① 1982年4月26日の噴火の概況と地震活動

② 噴出物調査及び水準再測

行武委員：地磁気全磁力繰り返し測量結果

太田委員：二酸化イオウ放出量の測定

小坂委員：1982年4月26日噴出火山灰水溶成分

浅間山の活動について(コメント)

「4月26日の噴火は2時25分から4時間余り続いたのち、6時40分頃にはおさまり、その後は静かな状態が続いている。今回は噴火の規模が大きくなかったこともあろうが、噴火直前の前兆現象としての火山性地震の群発が全く認められなかった。しかし長期的に火山現象をみると次のとおりである。

(1) 火山性地震は昭和55年6月ごろから全般的に増加しており、また地震が短期間群発することがときどきあった。

(2) 山体が最近の1年間わずかながら沈下から隆起に転じている。

(3) 噴煙の量は55年10月ごろから以後はやや増加している。

以上のようなことから、浅間山の地下には噴火の潜在力が現在も内蔵されているので、当分の間は注意を要する。」

3.2 有珠山

竹山（気象庁）：地震回数推移

横山委員：地震発生状況，震源分布，地殻変動等について

有珠山の火山活動についての統一見解

「有珠山の活動は昭和52年8月の軽石噴火に始まり，その後，水蒸気爆発が繰り返され，昭和53年10月で噴火活動は終わったが，なお依然として低調ながら地殻変動及び地震活動は続いていた。本年2月・3月に至り，その活動は急速に衰え，群発地震は3月4日，有感地震は3月15日を最後として，現在まで起きていない。火口原内新山の隆起，北外輪のせり出しについても同様である。今後もあるいは小地震程度は起るかも知れないが，噴火開始以来，4年10か月を経て，ほぼ噴火前の活動状態に戻ったと言える。

今回の噴火活動により新山の隆起は約180 mに達し，地震の総回数は約184,000回，うち有感地震は約24,000回に達した。今回の噴火は大規模であったにもかかわらず，この火山に特徴的な熱雲の発生をみなかったことは幸いであった。今回の有珠山の噴火活動の観測成果は，同火山の将来の活動予測に大いに役立つものと思われる。」

3.3 桜島

竹山（気象庁）：活動経過

加茂委員：活動経過，水準測量結果等について

水野委員：鹿児島湾周辺の水準測量結果，阿久根・三角・鹿児島験潮場間の月平均潮位差

3.4 霧島山

竹山（気象庁）：新燃岳第6火孔噴気温度等について

小坂委員：新燃岳第6火孔噴気ガス組成等について

3.5 雌阿寒岳

竹山（気象庁）：3月の地震増加について

横山委員：臨時地震観測結果

3.6 硫黄島

高橋委員：3月9，10日に発生した水蒸気爆発について

3.7 富士山

高橋委員：富士山周辺の地震活動

3.8 伊豆大島

竹山（気象庁）：5月17日に大島で震度Ⅱの地震発生（報告）

宇平（気象庁）：三原山火口周辺の熱的測定

行武委員：三原山の見かけ比抵抗

3.9 火山基本図について

土肥（国土地理院）：①昭和56年度作成：伊豆大島，阿蘇山

②地表面温度分布：伊豆大島，阿蘇山

③昭和57年度（予定）：浅間山，草津白根山

3. 10 樽前山

横山委員：震源分布等について

3. 11 南硫黄島周辺海底火山

佐藤委員：①最近の活動

②トカラ列島宝島沖の情報

4. 協議事項

4. 1 次回連絡会開催期日

秋季火山学会の開催期日決定後、10月中の適当な日を追って決める。

5. その他

浅間山火口周辺のビデオ映写（噴火後、長野県へりから撮影）

〔 17：00～18：00 記者会見 気象庁記者室 〕